

第1学年「となりあう3つの音で つくろう」補足資料

東京都公立小学校

♪ 4種類のシート【水色・黄色・ピンク・緑】を使って、となりあう3音で旋律づくりをする活動

☆ 4分の4拍子、一人4拍分の旋律をつくり、3人でつなげた作品

☆ 1小節目〈Aさん〉→2小節目〈Bさん〉→3小節目〈Cさん〉→4小節目〈みんな〉

* 4小節目はABCみんなで作った旋律

☆ 使用するシートの組合せは、3人で相談して使用

1 作品について

◇児童の作品例①【水色：ソラシ】〈*音源あり〉

○Aさんのつくった上行の旋律に対して、次のBさんはAさんの最後の音からリズムを反復、音を下行させて最後は1度上げる工夫をした。さらにCさんはBさんの最後の音からしりとりのように音をつなげ、四分音符と二分音符を組み合わせたリズムでつなげた。

○最後の4小節目は、Cさんのリズムを反復、同じくシの音で終わるような音を選び、4小節ともに3、4拍目は二分音符で2拍伸ばす音でまとまっている。

○Aさん、Bさんの前半1、2小節と、Cさん、みんなの後半3、4小節でリズムが変化して「呼びかけとこたえ」となっていると面白い。

◇児童の作品例②【水色：ソラシ】

- すべての小節で、ソの音から始まる旋律でつなげている。
- Dさんの旋律に対して、EさんはDさんの最後のソの音から始まる同じリズムで答える旋律をつくった。Fさんは同じくソの音で始まるが、リズムを変化させる工夫をしていた。
- 最後はFさんの旋律を反復してまとめ、前半1、2小節と後半3、4小節の2つのリズムでまとめ、リズムが細かく変化して「呼びかけとこたえ」となる旋律の面白さも見られた。

◇児童の作品例③【水色：ソラシ】〈*音源あり〉

→4小節目の速さを変えてゆっくり終わる。

- Gさんは1、2拍目を四分音符で「タンタン」＋「ター」二分音符で伸ばす。
- Hさんは分割した八分音符と、途中に休符を入れた「タタッタタン・」とリズム変化する。
- Iさんは八分音符と四分音符の組合せで「タタタン」＋「ター」二分音符で伸ばす旋律をつくった。
- GさんとIさんの旋律は、1拍目は異なるが、2、3、4拍目は同じであり、3、4拍目を二分音符で2拍伸ばす山型になっている。A B A' C という流れになった。
- 最後の4小節目は「タンタンタンタン」のリズムを使い、ゆっくり終わる表現に工夫した。「4分の4拍子」「拍ののって表現」というルールから発展し、速さや終わり方の工夫が見られた。一人はオクターブ上で演奏したため音高の違いがあり、最後はフェルマータのように音をそろえて終わっていた。

◇児童の作品例④【黄色：ラシド】

- Jさんの最後のドをKさんがつなげている。Kさんの選んだ音とLさんの選んだ音は同じであるが、Lさんは2拍目を八分音符の分割、同じ音でリズムを変化させた。

- 3人ともに3, 4拍目は二分音符で2拍伸ばす旋律でつなげていた。
- 最後の4小節目は、Lさんの最後のシの音をつなげていくが、伸びていたリズムを伸ばさずに拍をはっきりと短く変化させる面白さが見られた。

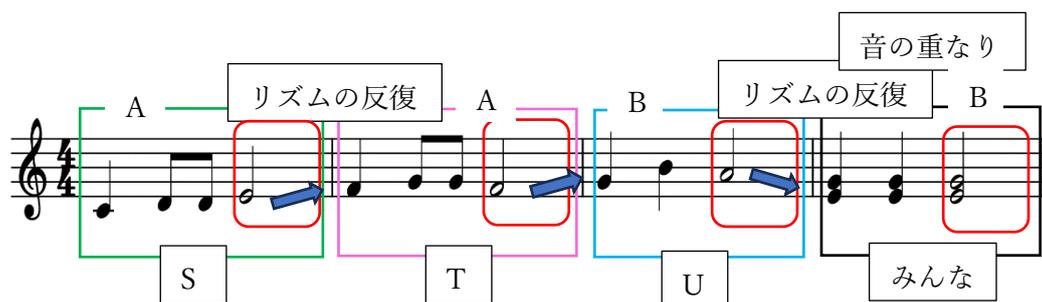
◇児童の作品例⑤【水色：ソラシ／緑：ドレミ】

- Mさんの旋律をNさんが少し変化させ、その後Oさんと最後は同じリズムで反復している。旋律の上がり下がりの変化が大きく表れていた。
- 3人ともに3, 4拍目は二分音符で2拍伸ばし、最後の4小節目も同様にまとめた。
- 水色2人の旋律に対して、Oさんはさらに音を高く変化させた。最後の4小節目は、ソラシをオクターブ上で演奏した。

◇児童の作品例⑥【水色：ソラシ／ピンク：ミファソ】

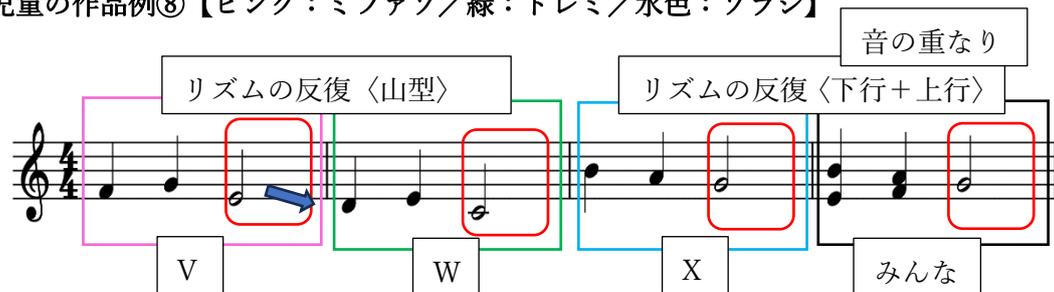
- Pさんの下行する旋律に対して、Qさんは最後のソ音から上行する旋律でこたえた。
- Rさんはピンクシートのミファソを前のQさんのリズムを反復し、同じく上行の旋律をつなげた。最後はリズムを変えて、さらに長二度の重なりを見つけて合わせる事ができた。
- 1, 2拍目はリズムの反復と変化が見られ、3, 4拍目は2拍で伸ばす旋律となった。

◇児童の作品例⑦【緑：ドレミ／ピンク：ミファソ／水色：ソラシ】〈*音源あり〉



- 3人ともに違う色のシートで旋律をつくってつなげた。Sさんのドレミと上行する旋律を生かして、次のファから始まる旋律でさらに上行させるが、最後をラではなくファに下ろした。次のUさんがソ音から始まるため、ドから始まる旋律が、ド→ミ→ファ→ソと上行していく。
- 最後は、3人で共通の音がなかったため、Sさんはミ、TさんとUさんはソと一緒に使えることが分かり、ミとソを重ねたら合うという発見からUさんのリズムを反復させて重ねていた。

◇児童の作品例⑧【ピンク：ミファソ／緑：ドレミ／水色：ソラシ】



- ピンクのシートのVさんの旋律に対して、緑シートのWさんは最後の音をつなげてさらにリズムを反復、旋律も同じ形で下行させた。
- VさんとWさんの旋律に対して、Xさんは高い音から下行して、2人とは異なる旋律に変化させた。
- 最後は、Xさんは自分の旋律を2回繰り返している。Vさんは下音から1音ずつミファソと上行するとXさんのソ音と合体する楽しさを見つけた。
- Wさんにとって共通の音はミ音だけであるが、本来の5音音階シートのとなりあう3音ではない2音を使うとXさんの水色シートと同音があることに気づき、「ドレミ」ではなく「ミラソー」とリズムを合わせて表現した。

2 児童の活動の様子と成果について

〈ミニキーボードとシートの活用から〉

- ・ミニキーボードの操作と色別シートに興味を持ち、1人一台と色別4シートを活用できる喜びを感じて主体的に活動することができた。
- ・シートの3音と2音に色がなく、キーボードに置くと3音と2音でまとまって見えたり、色別シートによって空いている音が違うことに気付いたりして、音の並び方や音階に興味を持って遊びながら旋律づくりをすることができた。
- ・シートによるとなりあう3音が明確で、音の高さや上がり下がりが容易に確かめられ、即興的に遊びながら音を選ぶことができた。
- ・3つの音だけで音の動きや操作が考えやすく、4拍分で多様なリズムの旋律をつくることができた。
- ・音階シートの5音音階による旋律づくりではなく、3つと2つのまとまりの音に注目する新たな活用について開発することができた。
- ・ミニキーボードは、鍵盤ハーモニカとは異なる多様な音色から、旋律をつくるのにふさわしい音色を選択する面白さを感じることもできた。

〈となりあう3音による旋律づくりから〉

- ・4拍の旋律を模倣したり、1拍だけ変化させたりする常時活動を通して、自分でつくる楽しさを感じ取り、つくった旋律を一人で演奏できるようになった。
- ・タンやタタなどの既習のリズムを生かしたり、リズムを変化させたりしながら、となりあう3音から音を選んで4拍に入れることができた。
- ・3音の組み合わせとリズムの工夫をしながら、即興的につくった4拍分を3人でつなげて、4小節分の旋律を協働的につくる面白さを感じ取ることができた。
- ・友だちの4拍の旋律からリズムの模倣や変化を瞬時に考えたり、つくった4拍をつなげて音の動きを確かめたりしながら、様々な旋律をつくることができた。
- ・シートによる3つのとなりあう音の違いが分かり、その音が生み出す旋律の感じの違いがあって面白いことに気付くことができた。
- ・シートで区切られているため、オクターブ違いのとなり合う3つの音を容易に見つけたり、子供が音の高さを変えて旋律をつくったりする発想にも広げることができた。

〈授業後の活動に生かして〉

・ミニキーボードは継続して、その後の題材において教材の演奏に活用している。シートの3つのとなりあう音を【緑：ドレミ】、【ピンク：ミファソ】、【水色：ソラシ】とつなげると、〈ドレミファソラシド〉とハ長調の音階となるため、「きらきらぼし」などの旋律を容易に理解して演奏することができた。鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等の鍵盤打楽器を使用する器楽合奏にもシート活用の実践を生かしていきたい。